

平成7年(1995年)11月1日発行

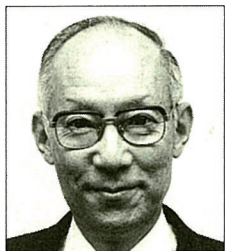
二十一世紀の電子機器部品づくりを目指して

塑性加工
シンポジウム

盛大に開催される！

日本工業大学機械工学科は、日本塑性加工学会、日本機械学会との共催で、この十月二十七日、本学の学友会館において、第一六回塑性加工学会シンポジウム《電子機器部品に関する精密塑性加工技術—PART3》を開催した。

シンポジウムの開催趣意は、企業の国際化に対応して、わが国の電子機器部品の塑性加工技術者と研究者が一同に会し、製品精度・品質・生産性の向上などに努力を傾注している現状を展望。さらに加工基礎、材料開発、金型とプレス技術の進歩、精密プレス加工事例などを検討して、当分野の一層の発展に資することにあつたが、多数の参加者を得て、所期の目的を達することができた。



神馬 敬教授

シンポジウムは、元日本塑性加工学会会長の任にあつた本学の神馬敬教授が開会の辞。そして午前の部の司会を本学の村川正夫教授が担当、午後の部の司会

- は神奈川県産業技術総合研究所の田村清氏がつとめ、合わせて九つの講演が、繰り広げられた。
- 参考までに、その内容を列挙すると、左記のとおりである。(敬称略)
- ◆電子部品の高精度化の動向 (株)東芝生産技術研究所/辻秀志
- ◆微細せん断加工の変形機構 (日本工業大学/神馬敬)
- ◆せん断バリの問題と対策 (神奈川大学/青木勇)
- ◆高速精密プレスの動向 (アイダエンジニアリング(株)技術研究所)
- ◆精密機械加工部品のプレス化 (アプト技研/大島清次郎)
- ◆極微細リードフレイムの打抜き加工 (アピックヤマダ(株)技術部/宮澤久三)

- ◆ICリードフレーム用材の開発動向 (大同特殊鋼(株)研究開発研究所)
 - ◆金型の高剛性化 (京都教育大学/関根文太郎・(株)エノモト/榎本信雄)
 - ◆金型材料の動向とその加工 (日立ツール(株)開発部/井寄裕介)
- なお講演終了後、神馬敬教授の司会で総合討論が行われ、各講演内容の評価や、今後取り組むべき問題点などに関して、熱心な質疑応答がなされた。
- ともあれ二十一世紀は、より高度なエレクトロニクス社会が現出しよう。その意味で、その基礎をなす秀れた電子機器部品の製造は急務の課題と言える。当シンポジウムの一層の発展が大いに期待されるところだ。

座 標 3

豊かな感性は
生涯学習の基礎



木村 寛治教授
日本工業大学
工業教育研究所

和歌山県出身の皆さんはよく知っていると思う。和歌山県が生んだ偉大な博物学者・民族学者である。私も、このことがきっかけで、南方熊楠に関する本に出会うことができた。

十六歳の春、東京に出た熊楠は、最も尊敬するイギリスの植物学者パークレーの菌類六千点を集めた標本

世界最高の「ネイチャー」誌に矢継ぎ早に論文を発表。いならぶ学者と明治の日本人として堂々と論争した。帰国した熊楠は、熊野三千三百峰を奔走し、踏査した。粘菌の観察に熱が入ると鉢じゅうが日照り、汗がたたり、衣服を脱ぎ捨てと確信している。

た研究者は未だかつていない。この体験は誰にも「ものごと」を考えると研究の場を大地に求めつづけた努力家であり、「生きること」は学ぶことで「あつたにちがいない。生涯にわたって自己実現を見事に果たした世界的な偉人の一人

好奇心を活発にする。さらに、この体験は誰もが「ものごと」を考えると研究の場を大地に求めつづけた努力家であり、「生きること」は学ぶことで「あつたにちがいない。生涯にわたって自己実現を見事に果たした世界的な偉人の一人

人間の脳の神経分布を調べたW・ペンフィールドは手が最も発達している」と指摘している。すなわち、「か

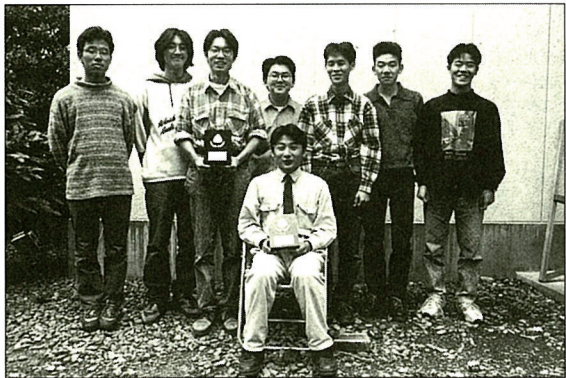
「んじること」が「かんがえる」ことにつながるからである。

また、人間の認識作用には、理性的認識と感性的認識の二つがあるとされている。感性的認識は理性的認識の前段階としながらも、豊かな感性的認識のうえにのみ、よりよく理性的認識が構築されるとして、教育学者J・Hペスタロッチは感性和理性的バランスの必要性を強調している。

さらに、創造性分野で有名なボアンカレは、感性和創造性の関係は無縁でなく最も必然的な要素になっているとも指摘している。

生涯学習社会の中で逞しく活躍するためには、豊かな感性を育むことがお互いの課題であろう。

きむら かんじー東京都教育委員会・都立工業高等学校長・全国工業高等学校長協会理事長を歴任する。



「クラブ活動のエイズ」の誉れも高い本学の自動車部が、九月十五・十六の両日、つくば市の日本自動車研究所高速周回路で開かれた「NICTO impulse 948」号と共に参加した「NICTO 959」号も、三位の東京理科大学の部に、五連覇という大差をつけて、堂々第二位に入賞するという快挙を遂げた。

優勝車の記録は、台風十二号の影響による雨中にもかかわらず、一と当たり千七百十八・五五五を走破した計算になる立派なもの。ドライバーをつとめた森健次君(一年)は、レースのために三カ月ほど

「クラブ活動のエイズ」の誉れも高い本学の自動車部が、九月十五・十六の両日、つくば市の日本自動車研究所高速周回路で開かれた「NICTO impulse 948」号と共に参加した「NICTO 959」号も、三位の東京理科大学の部に、五連覇という大差をつけて、堂々第二位に入賞するという快挙を遂げた。

《ホンダ燃費競技大会》大学の部で、五連覇という大記録を達成した。優勝車「NICTO impulse 948」号と共に参加した「NICTO 959」号も、三位の東京理科大学の部に、五連覇という大差をつけて、堂々第二位に入賞するという快挙を遂げた。

自動車部、五連覇の偉業
大差で1、2位を独占！

かけて約十キロの減量を果たす努力を己に課した。むろん優勝の裏には、部長の梨本修君を中心とした七名の部員たちの良きチームワークが存在する。例えば、こんなエピソードにその一端がうかがえる。

それは本年八月の熊谷のテストコースでのこと。千葉県立京葉工業高校と本学の自動車部が合同練習を行った際、突如襲った雷雨のなか、高校生には安全な車の席を譲り、自分たちはビニールシート一枚でマシンを守った姿に感動した、という旨の大川学長あての手紙が高校の先生より届けられた。まさに「クラブ活動の精神ここにあり」の感である。

チェコ工科大副学長来訪

学術交流



大川学長らと面談するテュマ副学長

さる十月十二日、チェコ工科大学副学長で電気工学科教授の任にあるユリ・テュマ博士が、来学された。来日の目的は、十月上旬に幕張メッセで開催された

「世界エネルギー会議」参加にあつたが、かつて同大学の客員教授をつとめた本学電気工学科・岸敬二教授との縁で、「この機会に、ぜひ日本工業大学のすぐれた環境施設を参観したい」という事にあつた。

ちなみにチェコ工科大学は、歴史都市として知られる首都のプラハにあり、そのレベルの高さは、かつて同国が世界の工業先進国に数えられた点に裏付けられる。そして、あの一八九九年の「ビロード革命」以後は、再度、先進工業国の仲間入りを果たすべく、努力を傾注している最中である。

なおテュマ副学長の観た本学の印象、ならびに学術交流への思いは、次号でつまびらかにお伝えする予定である。

世界デタノ探見

3

昨年、研究集会に出席するためローマに行った。「イタリアは、人間活動のあらゆる分野で天才が輩出する国だ、泥棒やポン引きの分野も例外ではない」だから気を付けるようにと、天才達のさまざまな手口を友人が教えてくれた。笑いながら聞き流していたのだが、無意識のうちに用心深くなっていたらしい。

「あなた日本人？私はニューヨークから今朝着いたばかり、ここはどこ？」と、いつの間にか歩調を合わせる怪しげな男。「トリトネ通り、手に地図を持つてるじゃないの」と、急ぎ足で離れる。数分歩くと、目つきの悪い男が現れる。やはり市街図を手をしている。「日本人？、私はインドから昨晚ミラノに着いて今朝ローマに……」追いつがると、のろろと振り切る。

いきなり、ジブシー女が突き出すボール紙（その下で伸びる手）を、はたき落として通り抜ける。黄色い声で悪態をつくの後ろに前方を見ると、汚い女の子が四人こちらに向かってくる。取り囲まれたらひっぱたいて蹴散らせ、と聞いたが、年端も行かない童女をけ飛ばす荒業は、できそうもない。車の間を縫って道路の反対側へ急ぐ。

こうしてトレヴィの泉にたどり着く。肩越しにコインを放り込めば再びローマに来れるという、伝説の儀式を型通りにやる。泉を飾るネプチューンの彫像が、伝説を保証するかのよう。気品を漂わせている。

安くてうまい、と案内書にあったレストランで腰を下ろした。壁一面に、凡作揃いの額絵を飾った気楽な

店だった。ほどなく、三代後半と見える男が案内されて、肘をつき合うほどに寄せ合った隣席に着いた。しきりにこちらを窺うので、目を合わせて「こんばんわ」と挨拶すると、すかさず「日本人？私はミネソタから昨晩着いて……」（やれやれ、今度こそ天才？）「日本に行ったことは？」「ゲイオと、イトツバシに行ったことがある」

「あなたはエコノミスト？」「につこりうなずく。」「サワ教授を知ってる？友人なんだ」（ごめんなさい、名刺を交換した程度なの

いるらしいんだ」「なぜ、そう思うの？」「昨年トリノの大学で研究会があった、持っていたウォークマンのヘッドフォンがこわれたんだ、知人が良い店を教えると言って、住所を書いてくれた、翌日そこへ行くと、ふつふつのアパートで、商売している気配は全然ない、とにかくドアごしに用件を言う、希望の物を現金で売ってくれた」

話ははずんで、エスプレッソも飲み終えて、勘定書を取り寄せた。サービスクレジットは不要と書いてあったので、「釣りはいらぬ」と、すこ

聞けば、経済の問題構造がわかったではないか。問題の一端は、彼が挙げた名前から想像される。

財貨の生産と消費に夢中になった高度成長時代の経済活動から、資源の浪費と環境汚染と、分配の不正が生じた。これらは、社会的費用が適正に扱われていないことによって、加速的に進んでいる。

社会的費用は、大まかにいえば自然環境、天然資源、公共施設など、社会にとって共通の財産（資本）を利用し、消費し、損耗するとき、それに見合って本来は負担すべき費用である。

経済活動の社会的費用の大部分は、その経済に直接関係ない人々をふくむ社会全体、さらには子々孫々が負担している。そのために生産と消費は、あるべき値よりもはるかに安い費用で行われ、浪費、汚染、不正が加速される。

ミネソタの若い経済学者が誇らしげに祖父教師と呼んだ先生は、二十年以上も前から、技術経済活動で社会的共通資本が正しく扱われていない誤りを鋭く指摘されていた。この考え方は、ようやく経済のアカデミーで、指導的な理念になり始めたのである。

社会的費用が経済理論で重視されれば、いずれはそれが実際の市場価格に反映するようになる。当然、技術はコストが変わり、技術のあり方も変わってくる。

いはら・せいじろう 一九六二年早稲田大学電気工学科卒業。通商産業省工業技術院電子技術総合研究所を経て一九九二年より本学勤務。システム工学担当。

平成六年年度決算 平成七年度予算 報告

財務状況について 第二八期決算・第二九期予算が公認会計士及び法人監事の監査を受け、法人理事会・評議員会で承認決定されましたので、ここに財務諸表を公表し、関係各位のご理解とご協力をお願いする次第です。

十八歳人口減少期に入り、私学にとつてはいかにして教育・研究の充実ならびに特色化を図り、財政基盤の維持安定に努めるかが大きな課題となっています。

この課題に対し、本学は、高度情報化・国際化社会で活躍できるハード・ソフトウェアの両面の技術を併せ

持つ人材の育成を目指し、平成七年四月に「情報工学科」を開設いたしました。今後、教育研究・学生生活環境の整備改善、財政の見直しに努め魅力ある大学作りを鋭意努力してゆく所存であります。ご父兄の皆様はじめ、卒業生、教職員、学校関係者の皆様のますますのお力添えを頂き、更に発展させて参りたいと考えております。

平成六年度決算について 建築学科新実実験研究棟竣工、本館空調設備改修・野球場改修・後援会協力による第二食堂新築等の諸工事が行われ、教育研究活動

並びに学生生活の充実に配慮された予算執行がされました。

平成七年度決算について 機械工学科新実実験研究設計着手、学生駐車場舗装工事、体育館改修工事、教室実験棟の改修工事が予定されております。

財務諸表について 平成六年度の全ての収支を表示する資金収支計算書と、期末に於ける全ての資産と負債の状況を示す貸借対照表および平成七年度資金収支予算書は別表のとおりです。

桑原文夫教授 昭和二十二年生まれ。五十年三月、東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。工学博士（東京工業大学学位論文「液状化した砂地盤およびその近傍における間隙水圧に関する研究」）。同年、本学の講師に就任。五十二年四月、助教授、平成三年四月、教授に昇任する。この間、オーストラリアのシドニー大学に招聘教授として、約一年間勤務する。

高本研一教授 大正十五年生まれ。昭和二十七年埼玉県生まれ。昭和二十七年三月、東京大学大学院ドイツ文学科退学。その後、茨城大学文学部講師、中央大学工学部講師、東京都立大学文学部教授を経て、昭和六十二年四月、本学の教授に就任する。専門は二十世紀ドイツ文学。研究テーマは、あのドイツ統一の鋭い発言などで知られるギュンター・グラスを中心とするドイツ戦後文学。

平成 7 年度資金収支予算書					
収 入 の 部		金 額	支 出 の 部		金 額
学生納付金収入		5,274,580,000	人件費支出		2,850,639,280
授 業 料	3,579,066,000		教育研究費支出		1,350,508,145
入 学 金	257,120,000		施設関係支出		1,957,133,720
実 験 研 究 費	438,588,000		設備関係支出		874,091,914
施設設備拡充費	999,006,000		管理経費支出		308,693,000
教 材 費	800,000		借入金等利息支出		186,929,000
			借入金等返済支出		131,650,000
			その他の支出		578,332,394
手数料収入		92,400,000	未払金	49,425,927	
寄付金収入		51,171,000	退職給与引当特定資産繰入	10,500,000	
補助金収入		464,500,000	施設引当特定資産繰入	24,000,000	
資産運用収入		129,080,000	育英基金特定資産繰入	8,380,000	
事業収入		3,000,000	設備引当特定資産繰入	51,200,000	
雑 収 入		71,118,000	第3号基本金引当特定資産繰入	35,000,000	
借入金等収入		200,000,000	その他	399,826,467	
前受金収入		2,360,416,000	予備費		80,000,000
その他の収入		374,352,468	資金支出調整勘定		2,003,740,694
資金収入調整勘定		△2,360,822,500			
前期末前受金控除	△2,360,822,500				
前年度繰越支払資金		6,581,687,480	次期繰越資金		2,919,764,301
収 入 の 部 合 計		13,241,482,448	支 出 の 部 合 計		13,241,482,448

貸 借 対 照 表				平成 7 年 3 月 31 日現在	
資 産 の 部		金 額	負債・基本金及び消費収支差額の部		金 額
資産の部			負債の部		
固定資産		15,356,851,894	固定負債		5,090,043,800
土地	1,942,135,355		長期借入金	3,840,920,000	
建物	8,243,057,704		退職給与引当金	1,249,123,800	
構築物	773,574,865				
教研用機器備品	3,246,117,493		流動負債		2,653,818,894
その他の機器備品	101,078,206		短期借入金	131,650,000	
図書	931,285,597		未払金	49,425,927	
車輜	8,234,214		前受金	2,360,822,500	
建設仮勘定	111,368,460		預り金	111,920,467	
その他の固定資産		3,556,276,011	基本金の部		19,422,143,899
電話加入権	2,270,888		第1号基本金	18,622,975,235	
有価証券	450,451		第3号基本金	371,230,000	
差入保証金	732,700		第4号基本金	427,938,664	
退職給与引当特定資産	628,355,967				
施設引当特定資産	2,410,282,492		消費収支差額の部		△1,513,356,588
設備引当特定資産	113,404,090				
育英基金引当特定資産	29,549,423				
第3号基本金引当資産	371,230,000				
流動資産		6,739,522,100			
現金	6,581,687,480				
預入金	132,198,750				
前払金	3,502,000				
仮払金	22,133,870				
資産の部合計		25,652,650,005	負債・基本金及び消費収支差額の部合計		25,652,650,005

平成 7 年度資金収支予算書					
収 入 の 部		金 額	支 出 の 部		金 額
学生納付金収入		5,274,580,000	人件費支出		2,850,639,280
授 業 料	3,579,066,000		教育研究費支出		1,350,508,145
入 学 金	257,120,000		施設関係支出		1,957,133,720
実 験 研 究 費	438,588,000		設備関係支出		874,091,914
施設設備拡充費	999,006,000		管理経費支出		308,693,000
教 材 費	800,000		借入金等利息支出		186,929,000
			借入金等返済支出		131,650,000
			その他の支出		578,332,394
手数料収入		92,400,000	未払金	49,425,927	
寄付金収入		51,171,000	退職給付引当特定資産繰入	10,500,000	
補助金収入		464,500,000	施設引当特定資産繰入	24,000,000	
資産運用収入		129,080,000	育英基金特定資産繰入	8,380,000	
事業収入		3,000,000	設備引当特定資産繰入	51,200,000	
雑 収 入		71,118,000	第3号基本金引当特定資産繰入	35,000,000	
借入金等収入		200,000,000	その他	399,826,467	
前受金収入		2,360,416,000			
その他の収入		374,352,468			
			予備費		80,000,000
資金収入調整勘定		△2,360,822,500	資金支出調整勘定		2,003,740,694
前期末前受金控除	△2,360,822,500				
前年度繰越支払資金		6,581,687,480	次期繰越資金		2,919,764,301
収 入 の 部 合 計		13,241,482,448	支 出 の 部 合 計		13,241,482,448

旅の中で考えたこと



ら、一体それはどんな点に
来するかという人間工学
側面を、よく調査研究して
たいですね。

保坂 それから、これは
ちばん切実に感じた問題だ
れども、もつと身を入れて
学を勉強しなければならな
ということ。とにかく食事
するにしても買い物をする

語学力の必要性を痛感!!

カナダ・バンクーバー市内のホスト・ファミリーと生活を共にしながらUBCに通って、英会話力の向上をはかる夏の特別研修も、無事終了した。日程は約ひと月。当初は気おくれ気味だったコミュニケーションも、日数を重ねるにしたがって解消。市民たちとの交流も、大いに楽しんだようだ。

■思い出は山ほどあると思うけれども、まず研修に参加した結論から話して下さい。

菊地 非常に楽しかったですね。で、教室で勉強するのと実際の暮らしのなかで英語が使われている国で勉強するのは、身の入り方が違っていた。できれば、もう一度行ってみたいですね。

土井田 僕も来年また行きたい。みんな親切だしね。まあ、もう少し英語がしゃべれたら、ホームステイしたホスト・ファミリーと色々な事を語り合えただろうし、もっと楽しいだろうな、というのが実感。だから、今度行くときは、語学力を磨いて、様々な事を語りあてたい。

津久井 ホームステイ中の週末休みが一度しかなかったんですけど、その際、もうちょっと自分が何をしたいのかわかる、どこへ行きたいかわかる、はつきり言えるだけの予備知識を持って行けばよかった。というのは、こちらにその心の準備がなかったものから、結局あちらの提案に乗るよりかはなかった。それが、ちよつと残念でした。

またUBCでの勉強も、日本語は一切不慣れなんですから、自分に積極的に意見を述べる語学力が無いものから、質問を受けても、言葉につまってしまう。それが骨身にしみました(笑)。

福元 僕も、概ねみんなと一緒になんですが、まあ語学力の至らなさはハート・ツ・ハートというか、全身を使ってコミュニケーションを楽しみました(一同爆笑)。まあ、そんなわけで、深い話とはちがく、日常生活面では、いわゆる手まね足まねの万国共通

U.B.C (ブリティッシュ・コロンビア大学)

英会話特別研修



津久井かおり君



菊地 隆志君



土井田主税君



福元 清一君

津久井かおり (機械工学科3年)
菊地 隆志 (電気電子工学科2年)
土井田主税 (建築学科3年)
福元 清一 (システム工学科3年)

■U.B.Cの授業は、一日にどれくらいあるわけですか？

菊地 午前中の三時間です。午後はその残り半日町中に出て見物したりショッピングしたりする中で、自主的にトレーニングするわけです。

土井田 その観光タイムが楽しいですね。バンクーバーは、とにかく公園が多いので、僕は公園ばかり巡り歩いていた(笑)。

津久井 私は午後はショッピング(笑)。で、CDの中古屋なんかを歩きましたね。

福元 僕は、海に行ったり山へ行ったり、また川へ行ったりのネイチャー・ウォッチング、専門でした。無論、発音もシンガポール

か？」というような質問が飛んで、それに答えるという風な感じで授業が展開されるわけですね。

土井田 いま視線の話が出たけれども、僕も最初は、質問されると自信がないもので、まずは友達と顔を見合せて、日を重なるにしたがって、それは失礼になるし、間違えてもいいから、とにかく直ぐに答えるようにした。つまり、そういうある種の「度胸」が、ついた点が僕の成果ですね。

親切だったホスト・ファミリー

■君たちが世話になったホスト・ファミリーのことが聞きたいのだけれど。

菊地 僕が世話になった家庭は中国系で、二十五年前にカナダに移住した、と言ってました。共働きの両親と六歳の女の子が一人の三人家族でしたが、その子がいたから盛りで、ちよつとうるさかった。僕が本を読んだと、黙って入って来て、あばれまわって帰ってゆく(笑)。

土井田 僕の所はフランス系の家族で、ジャズ・ミュージシャンの主人と図書館司書の奥さん、それに十一歳の女の子と五つの子という家族構成でした。で、夕食は一緒に食べたが、朝食は独りで摂る事が多かったですね。無論、

にならないうのは……。

福元 いや、バス路線や停留所などを調べなければいけないうから、デパートのインフォメーション・センターに聞きに行ったり、通りすがりの人に路を尋ねたりしますから、結構、勉強になりました。



福元君 (右) とボールドウィン家夫妻

会話をしたりしました。話題は、「今日はどうだった？」というような他愛ないものでしたけれど……。

福元 僕の所は、もう現役を退いた老夫婦だけ。で、おじいちゃん、元雑誌の編集者。おばあちゃん、元看護婦をやっていたそうです。ですから、とにかく何もしくなくていいから」と、まるで孫のように親切にしてくれましたね。



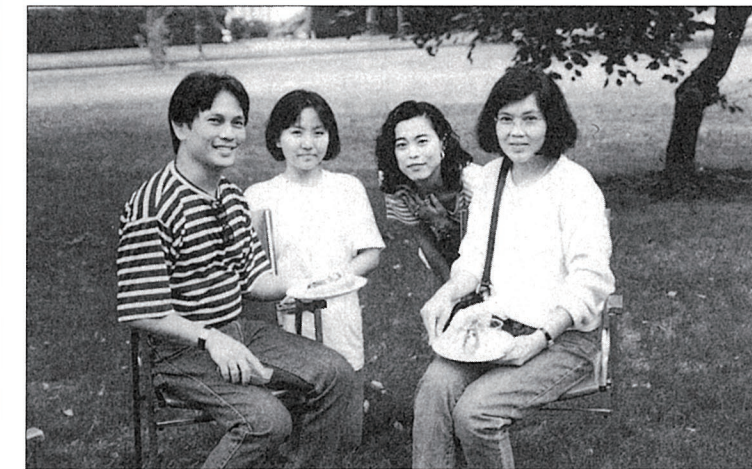
土井田君 (左) とローリック家の人々

■おじいちゃん、ジャズ・ナリストをやっていたのなら、日本に来たこともあるんじゃないの？

福元 ええ、そう言っていましたね。京都とか奈良に……で、夕食の時間なんかは、日本というのではなく、キミの家の周辺はどんな所とか、いまでもなっているの？ なんて聞かれました。

福元 環境意識が高いな、と感心しました。

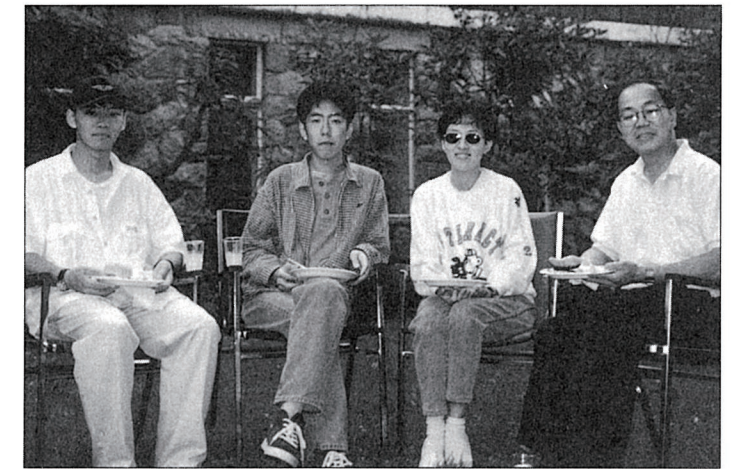
菊地 僕は、実のある異国文化体験をしようと思ったら、やっぱり普段から英会話をしている事に驚きましたね。日々、来年参加しようと考えている人達に、ぜひ伝えたいですね。(司会II企画室/櫻井)



津久井君 (左から二人目) とハーナンデス家の人々

当時は朝食も一緒でしたが、慣れるにしたがって、僕は朝食を焼いたりサンドイッチを作ったり食べていたわけです。

津久井 私の所はファミリー系のファミリーで、ご主人は金融関係の会社の勤め。それに奥さんと十八歳の双子の女の子の四人家族で、女の子の一人はU.B.Cの学生、もう一人は今年入学すると言っていました。でもその彼女たちはアルバイトをしていて、朝早いものから、あまりゆっくりは話ができなかったですね。でも夕食後は、二時間は一緒にテレビをみたりものを聞かせて下さい。



菊地君 (左から二人目) とステファン・リー家の人々

土井田 僕は全体としては不満はないんですが、強いて言えば、食事があまり口に合わなかった。とくに食パンがおいしくなかったですね。ですから、三日目ぐらいに、もう街に日本食を食べに行きましたね。それから料理にジャガイモが多い事に閉口しましたね。レストランの肉食でも、とにかくイモを敷き詰めたようにね……(一同爆笑)。

津久井 とにかくカナダという所は、自然の景色が豊かで、その点に感動しましたね。それからコーヒ・ショップなんかで気が付いたんですが、あちらの人って、みんな自分専用のカップを持ち歩いていて、それを使っている点にびっくりした。日本では、よく紙コップなんか使い捨てますよね。ですが、ああすれば廃

自治会便り

第二十七回《若杉祭》が 「永遠なる夢」を掲げて開催

第二十七回《若杉祭》は、
「FOREVER DREAM」(永遠なる夢)という
テーマのもとに、この十一
月三日から五日まで開催さ
れる。

大学祭実行委員長の鈴木
康文君(機械工学科三年)
によれば、《夢》をテーマに
掲げたのは、「自分自身を



含めて、みんなに夢がない。
しかし、せっかく恵まれた
学生生活を送らせてもらっ
ているのだから、各自が改
めてこれかと思う夢をぶつ
け合い、語り合うことが必
要と思った」点にある。

フィールド部門優勝 関東理工系大学対抗



「来年度は総合優勝」と張りきる部員

総合2位

九月二十三・二十四の両
日、埼玉県鴻巣市営競技場
で開催された《第二十七回
関東理工系学生陸上競技大
会》で、わが日本工業大学
は、フィールド部門での優
勝(総合第二)位を飾った。

競技は、まずインターカ
レッジ級の力をもつハイジ
ヤンプの山本和正君が優勝。
それをはずみに、左記の各
部門で優勝者が続出、本学
の名をたからしめた。

- ◆走り高跳 山本和正(建
築学科) 2 m 30
- ◆円盤投 佐藤博志(シス
テム工学科) 36 m 70
- ◆槍投 青柿一茂(建築学
科) 62 m 27
- ◆砲丸投 佐藤博志(シス
テム工学科) 12 m 80
- ◆棒高跳 大口浩司(建築
学科) 4 m 40
- ◆円盤投 青柿一茂(建築
学科)

※トラックは、鎌田君が3
000 m 障害で七位に入賞。

STUDENT face '95

電話の中身は、おおむね
「勉強してるか、掃除をし
てるかの二つ」と両君は笑
うが、おばあちゃんにして
みれば、とにかくふたりの
元気な声を耳にすることが

いずれ何らかのゲームソフ
トを開発したい」という点
にある。そして、コンピュ
ータというものに強い関心
を抱いた契機は、地元徳島
を拠点に、あの「一太郎」

ありや、と問うと、ふたり
で顔を見合わせ、兄の浩司
君が、こう答えてくれた。
「数学が難しいし、いろい
ろ勉強しなければならな
い事がある。でも松田
教授の講義なんか面白いし、
あと三年間頑張れば、なん
とか行けるのでは、と思っ
ています」

(転)

中国、桂林で記録技術に関
する国際会議「The 2nd
International Conference
on Imaging Science and
Hardcopy」が開催された。
国際会議の様子および研究
活動について紹介する。

NOW!! 中国での国際会議に 参加して



星野 坦之教授
(システム工学科)

研究室では、この会議の
主題であったハードコピー
技術について研究を行って
いる。ハードコピー技術は、
デジタル化(マルチメディア
化)によって、ますますメ
ディアが多様化してくるが、
ハードコピーメディアも見
易さ、扱い易さなどのヒュー
マンインタフェース性の
良さなどの点から重要な位
置を占めていくと考えられ
る。そこで、研究室では、
ハードコピー技術の研究を
基礎としてマルチメディア
時代のメディア技術の発展
に貢献することを目標とし
て研究を行っている。

まずは写真をご覧いただ
くとお判りであろうが、じ
つはこのふたり、今春開設
した情報工学科に学ぶ双子
の兄弟である。



(情報工学科1年)
山口 浩司君、啓司君

■二人でゲームソフトを作ってみたい

「たいへん明るく、施設も
整っていて満足」(啓司君)。
ふたり共通の友達も「十人
ほどできたから別に不安も
ない」(浩司君)。それに、
小遣い稼ぎのために、とき
に大学近くの店でレジなど
のアルバイトもやっている。
で、ちよつぱり気持ちに引
つ掛かりがあるのは、「ま
だ関東弁に慣れないこと。
でも、もうじきそれも解消
すると思う」との事である。
ともあれこの両君、大学
を出たら、故郷の徳島で働
く考えだ。そうならば、お
ばあちゃん孝行を、精一杯
やるに違いない。

(転)

国際会議のテーマとして
は、最近身近となっている
プリンタ、ファクシミリ、複
写機の技術である記録技術、
画像入力技術、画像処理技
術が取り上げられ、欧米、日
本、韓国、および主催国であ
る中国から論文発表があり、
約200名の参加者があつ
た。会議は、金木犀の樹に囲
まれた榕湖のほとりにある
静かなホテルで開かれた。

形成し、その像を現像する
もので、イオンの量を精度
よく制御できるため高品質
のカラー画像を記録するこ
とができる。これからのマ
ルチメディア時代に重要な
技術となることを期待して
研究を進めている。イオン

した。これは、最近中国で
この領域が市場的にも、技
術的にも伸びはじめたこと
が背景にあると思われるが、
毎晩パーティを開いたり、
市長が開会および閉会のと
きに駆けつける熱心さによ
るところが大きかった。

たっており、人類の文明発
展に大きな役割を果たして
きた。今後、コンピュータ
の発展つまりメディアのデ
ジタル化(マルチメディア
化)によって、ますますメ
ディアが多様化してくるが、
ハードコピーメディアも見
易さ、扱い易さなどのヒュー
マンインタフェース性の
良さなどの点から重要な位
置を占めていくと考えられ
る。そこで、研究室では、
ハードコピー技術の研究を
基礎としてマルチメディア
時代のメディア技術の発展
に貢献することを目標とし
て研究を行っている。

何よりなのであるう。
ところで、浩司君(兄)
と啓司君(弟)のふたりが
本学の情報工学科に入学し
たのは「ともにコンピュー
タに強い興味を覚えており、
学びはじめて、その可能性

を開発して市場を席巻した
ジャストシステムの成功物
語りを身近に耳にして育っ
たことにある、という。

では、大学で情報工学を
やるに違いない。

沖縄県にて

工友会全国支部大会開催される

平成7年9月9日(土)、午後3時より、第12回工友会全国支部大会が沖縄県那覇市首里の沖縄都ホテルにおいて開催された。



全国から7支部の参加があり、大会は、議長に川満秀吉氏(沖縄県支部長)を選出して進行された。各県支部より平成6年度の活動報告、本年度活動計画について説明があり、十分な討議の結果、いずれの議案も承認された。

この後、大学より小林勉学生部長、渋谷龍美学生課長を交えての懇親会が催され、一同、創立90周年に向けての事業の推進など、新たな決意を確認して無事終了した。

学内工事報告

教務課のインテリア 就職課のインテリア モダンな感じに!!

夏季休暇期間中に次の通りの工事を行なった。

① 研究室・事務室等の移動及び改修工事(工期8月10日～9月18日)

学長室、秘書室、教務部長室、総務課、施設管理課、用度・管財課及び憲法・経営学研究室(枝根助教)等、

英語研究室(森山・田口講師)が移動となった。特に学長室、秘書室は本館から情報工学科実験研究棟5階に移動。また、事務室は床のアクセフロア化と教務課と就職課は入口部の改修を行なった。

② 4号館・8号館空調工事(工期8月1日～11月中旬竣工予定)

昨年の本館空調工事に続き、本年も4、8号館の空調工事を行なった。この工事の竣工により、本学の主な施設の空調工事は全て終了することとなる。

また、4号館にある2教室については若干の改修を実施した。

③ 学生駐車場舗装工事(工期9月12日～9月28日)

近事片々

本学に在学中は柔道部の猛者として鳴らした、現在は東京の渋谷で社員四十人ほどの東照工業を営む浜田茂成さん(昭和四十四年、電気工学科卒)の生活信条は、「何をさておいても人間関係を重視」することにある。理由は、簡単明瞭。社会に出てから気づかされたことだが、「人間」というものは、とかく自力で生きていると錯覚しがちだが、結局は多くの人びとの力添えで生かされていることが分かったから」に外ならない。

OBサロン⑥



“人間山脈”を見据えて
浜田 茂成さん
東照工業株式会社代表取締役

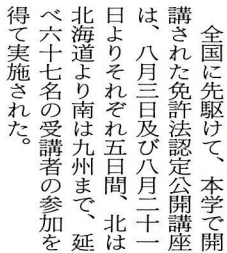
「勉強してやろう!」という気概が学内に満ち満ちていたこと」だった。その理由を浜田さんは、当時兄弟も多く、石にかじりついても自活の路を歩まざるを得ない状況にあったからではなかったか、と振り返る。しかし勉学への気概という、とかく学問に専念する

「勉強してやろう!」という気概が学内に満ち満ちていたこと」だった。その理由を浜田さんは、当時兄弟も多く、石にかじりついても自活の路を歩まざるを得ない状況にあったからではなかったか、と振り返る。しかし勉学への気概という、とかく学問に専念する

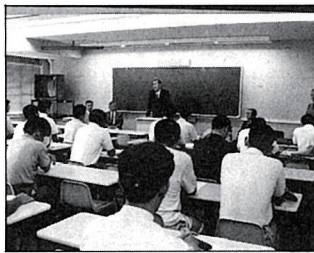
「勉強してやろう!」という気概が学内に満ち満ちていたこと」だった。その理由を浜田さんは、当時兄弟も多く、石にかじりついても自活の路を歩まざるを得ない状況にあったからではなかったか、と振り返る。しかし勉学への気概という、とかく学問に専念する

教育職員免許法認定

公開講座 盛會裡に終了



全国に先駆けて、本学で開講された免許法認定公開講座は、八月三日及び八月二十一日よりそれぞれ五日間、北は北海道より南は九州まで、延べ六十七名の受講者の参加を得て実施された。



この講座は、専修免許取得のため、高等学校の工業並びに中学校等の技術の一種免許を有する教員を対象に、大学レベルの科目を六単位取得するためのものであるが、烈暑にもかかわらず、参加者の熱心な受講により終了した。なお、この講座は、来年度以降も継続して開講される。

○本年度開講科目

「先端材料加工学特論」柳沢章教授、「電気エネルギー変換工学特論(岸敏二教授)」、「地盤災害特論」(北後寿教授)、「エネルギー・環境システム特論」(伊原征次郎教授)

人事異動

試験研究センター ↓ 助手に異動

江藤香教育技術員(情報技術センター) ↓ 助手に異動

吉岡亨教育技術員(情報技術センター) ↓ 助手に異動

兼子正生教育技術員(材料試験研究センター) ↓ 助手に異動

◎非常勤講師

竹内貞雄教育技術員(材料)

「ピザリア・トレビ」 第二食堂のニックネームは



本年6月より、図書館東側木立のなかにピザやスパゲティなどパスタ類を中心としたイタリアモダン感覚の「第2食堂」がオープンした。

そこで、この第2食堂の愛称を広く公募したところ、学生・教職員から215点の応募が寄せられた。建物のイメージやメニューの内容からイタリア調の名称が多く、これらを厳正に選考した結果、「ピザリア・トレビ」に決定した。

この名付け親は、大川学長で、「テレビの泉のように、沢山の人が集う賑わいのある場所になるように」というのがその理由。大いに賑わって欲しいものだ。

国外出張(7月～9月)

- ◆伊藤庸一教授(建築学科) / 出張先 大韓民国(7/8～7/11) / 目的 韓国・慶尚南道の民家空間調査
- ◆鈴木敏正教授(システム工学科) / 出張先 アメリカ(7/22～8/3) / 目的 第8回走査型トンネル顕微鏡・分光及び関連技術国際会議にて研究発表
- ◆奥田眞教育技術員(電気実験研究センター) / 出張先 タイ(7/31～9/28) / 目的 タイ国キング・モンクット工科大学にて実験指導
- ◆加村隆志講師(建築学科) / 出張先 大韓民国(8/2～8/6) / 目的 韓国の工業・建造物視察
- ◆竹内淳彦教授(共通系) / 出張先 大韓民国(8/2～8/13) / 目的 国際地理学連合(IGU)シンポジウムにて研究発表
- ◆古閑伸裕講師(機械工学科) / 出張先 中国(8/27～9/5) / 目的 低騒音打抜プレスの開発に関する調査及び打ち合わせ
- ◆北後寿教授(建築学科) / 出張先 アメリカ(8/6～8/13) / 目的 米国内における鉄骨構造物の震害対応策に関する調査
- ◆原田達哉教授(電気電子工学科) / 出張先 オーストラリア、フランス(8/19～9/2) / 目的 第9回国際高電圧工学会にて研究発表及び標準分圧器調査
- ◆原利次教授(システム工学科) / 出張先 オランダ(8/19～9/1) / 目的 第19回国際冷凍会議にて研究発表
- ◆村川正夫教授(機械工学科) / 出張先 アメリカ(8/20～8/30) / 目的 応用ダイアモンド会議にて研究発表
- ◆竹内貞雄教育技術員(材料試験研究センター) / 出張先 アメリカ(8/20～8/30) / 目的 応用ダイアモンド会議にて研究発表
- ◆伊藤庸一教授(建築学科) / 出張先 大韓民国(8/21～8/27) / 目的 韓国・慶尚南道の民家空間調査
- ◆佐藤勝行教育技術員(建築学科) / 出張先 ドイツ(8/21～8/29) / 目的 旧ドイツ住宅における外観の視察研究
- ◆神馬敬教授(機械工学科) / 出張先 大韓民国(8/22～8/27) / 目的 プレス金型の生産技術視察と討論、セミナー
- ◆有賀幸則助教(機械工学科) / 出張先 イタリア(8/26～9/5) / 目的 第9回機械機構理論に関する国際会議にて研究発表
- ◆伏見恒夫講師(機械工学科) / 出張先 イタリア(8/26～9/5) / 目的 第9回機械機構理論に関する国際会議にて研究発表
- ◆加藤重雄教授(システム工学科) / 出張先 イタリア(8/28～9/6) / 目的 第9回機械機構理論に関する国際会議にて研究発表
- ◆松本正勝教授(機械工学科) / 出張先 オーストラリア(9/5～9/17) / 目的 第12回空気吸込エンジン国際会議にて研究発表及び関係大学訪問
- ◆柳沢章教授(機械工学科) / 出張先 台湾(9/6～9/10) / 目的 型技術に関する第3回国際会議にて研究発表
- ◆小倉勝教授(機械工学科) / 出張先 アメリカ(9/7～9/15) / 目的 オフ・ハワイウェイSAEの国際会議及び小型エンジン技術会議にて研究発表
- ◆廣瀬治男教務部長 / 出張先 アメリカ(9/7～9/16) / 目的 「大学活性化米調査団」に参加
- ◆伊藤庸一教授(建築学科) / 出張先 大韓民国(8/21～8/27) / 目的 韓国・慶尚南道の民家空間調査
- ◆佐藤勝行教育技術員(建築学科) / 出張先 ドイツ(8/21～8/29) / 目的 旧ドイツ住宅における外観の視察研究
- ◆神馬敬教授(機械工学科) / 出張先 大韓民国(8/22～8/27) / 目的 プレス金型の生産技術視察と討論、セミナー
- ◆有賀幸則助教(機械工学科) / 出張先 イタリア(8/26～9/5) / 目的 第9回機械機構理論に関する国際会議にて研究発表
- ◆伏見恒夫講師(機械工学科) / 出張先 イタリア(8/26～9/5) / 目的 第9回機械機構理論に関する国際会議にて研究発表
- ◆加藤重雄教授(システム工学科) / 出張先 イタリア(8/28～9/6) / 目的 第9回機械機構理論に関する国際会議にて研究発表
- ◆松本正勝教授(機械工学科) / 出張先 オーストラリア(9/5～9/17) / 目的 第12回空気吸込エンジン国際会議にて研究発表及び関係大学訪問
- ◆柳沢章教授(機械工学科) / 出張先 台湾(9/6～9/10) / 目的 型技術に関する第3回国際会議にて研究発表
- ◆小倉勝教授(機械工学科) / 出張先 アメリカ(9/7～9/15) / 目的 オフ・ハワイウェイSAEの国際会議及び小型エンジン技術会議にて研究発表
- ◆廣瀬治男教務部長 / 出張先 アメリカ(9/7～9/16) / 目的 「大学活性化米調査団」に参加

NITEC 埼玉産学交流会より 4教員に研究奨励賞

この10月23日、NITEC埼玉産学交流会(会長・清水哲三郎氏)より建築学科の黒津高行助教授、機械工学科の吉田清講師、システム工学科の渡部修一講師へ、研究奨励賞(各25万円)が授与された。

編集後記

◆岸敏二教授(電気電子工学科) / 出張先 チェコ(9/10～9/20) / 目的 Czech Technical University からの要請により96年度の講座の回アメリカ真空協会ナショナルシンポジウムにて研究発表

◆黒津高行助教授(建築学科) / 出張先 ネパール(9/12～9/26) / 目的 同国に意を込めるために審査員の作品評価のポイントや助言を出来るだけ詳しく紹介すること。また夏期休暇利用の二つの海外研修については、在り来りの印象記を避けて、貴重な海外体験をどう感じたかに焦点を絞って、その思いの丈を開示してもらった。ヨーロッパ研修のそれは、同じ土地々々を訪れても、専攻する学科によって見る眼が異なっている点が興味深かった。カナダでの英会話研修の場合は、各自のホスト・ファミリーとの温かな交流が目にみえるようで、楽しかった。*が、少し注文がないわけではない。というのは、旅立ち前の予備知識が不足していたせいか、折角、異国を訪れながら、イマイチその国の文化の核心に眼が届いていない感が否めなかったからだ。今後、新たな国々を訪れる際は、せめて当該国の歴史や文化史については、予め、ぜひ目を通して出掛けてほしいものだ。*早いもので次号はもう新年号。今からその準備に取り組み所存だが、新企画を、ぜひマイクローウェン会議にて研究発表